

熊谷市史編さん委員会・編集会議・専門部会 報告

(平成二四年一月～二二月)

一 熊谷市史編さん委員会報告

一 熊谷市史編さん委員会委員の委嘱

市史編さん委員会委員の任期が平成二五年七月三一日にて満了となったため、平成二五年八月一日から二年間、次の方々に委員を委嘱した。

- | | |
|--------|--------------|
| 野澤 久夫 | (市議会議員) |
| 黒澤 三千夫 | (市議会議員) |
| 小野 美代子 | (文化財保護審議会委員) |
| 飯塚 好 | (知識経験を有する者) |
| 柿沼 幹夫 | (知識経験を有する者) |
| 北村 行遠 | (知識経験を有する者) |
| 宮瀧 交二 | (知識経験を有する者) |

- | | |
|--------|-------------|
| 村田 安穂 | (知識経験を有する者) |
| 平井 加余子 | (市民団体の代表) |
| 野口 幸雄 | (市民団体の代表) |
| 武藤 仁 | (公募による市民) |

二 平成二五年度 熊谷市史編さん委員会

日時 平成二五年一月一九日(月)午後二時
場所 熊谷市立商工会館 二・三会議室

【概要】

- 1 委嘱状の交付
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員長・副委員長の選出
・互選により、委員長に村田安穂氏、副委員長に飯塚好

氏を選出
4 審議事項

(1) 報告事項

- ① 熊谷市史編集会議 専門部会活動状況
- ② 事務局が行った基礎調査
- ③ 「資料編2 古代・中世」の刊行と広報活動
- ④ 「別編1 民俗」の編集状況

(2) 審議事項

- ① 「資料編1 考古」の体裁について
・ 柿沼幹夫考古専門部会長より、コンセプト等についての説明を行った。
- ② 熊谷市史の計画変更について

※事務局より、各分野において、新確認の重要資料が多数あることが分かってきたため、計画変更を検討している旨を説明し、以下の意見が出された。

- ・ こうした資料を今まで通りしっかりと調査し、より良い本を出すという目的であれば、計画変更についての調査・検討を進めるべきである。
- ・ いたずらに計画を延ばすのではなく、きちんとした計画を立てて遂行すべきである。

II 熊谷市史編集会議報告

日時 平成二五年三月二〇日(祝・水)午後二時
場所 熊谷市立熊谷図書館 第二講座室

【概要】

- 1 経過報告
 - ・ 平成二四年度編さん委員会報告
 - ・ 平成二三年度編集会議報告
- 2 各専門部会活動報告
- 3 事務局が行う基礎調査の活動状況
- 4 平成二五年度の計画について
- 5 「別編1 民俗」について
 - ・ 飯塚好民俗専門部会長より、本の構成、特徴等について説明があり、これに対して、熊谷の地域の特徴を出し、市民が興味を持ちやすいような工夫をするべきとの意見が出された。
- 6 「資料編2 古代・中世」について
- 7 熊谷市史研究について
- 8

(蛭間)

III 専門部会報告

一 考古専門部会

考古専門部会長 柿沼 幹夫

● 平成二五年中において考古専門部会は、次のように開催した。

平成二四年度第三回 平成二五年三月九日(土)

執筆状況報告、時期区分の協議、個別遺跡の検討

平成二五年度第一回 平成二五年六月二三日(日)

執筆状況・補充調査報告、本文構成の確認

平成二五年第二回 平成二五年一〇月一二日

執筆状況の確認、各章、時代概要のまとめ方の検討

● 資料調査では、中世における仏教関係遺物として東京国立博物館所蔵の妻沼経塚出土遺物の熟覧調査を、平成二五年三月一日と六月三日の二回にわたって実施した。また、船木遺跡出土土器と中西遺跡土偶などの実測図作成を行って掲載資料の作図化がほぼ終えた。

● 以上の討議・作業を経て、平成二六年度刊行予定の『熊谷市史資料編1 考古』の構成・体裁がほぼ確定した。

構成・体裁については、平成二五年一月二八日(木)開催の平成二五年度第一回熊谷市史編さん委員会で審議事項として上程され、了承された。

● 執筆は、各時代担当の専門調査員、特別調査員、協力員に加えて、市教委職員の方々にも分担執筆をお願いして鋭意進めている。今後、古代史専門部会と中世専門部会との相互調整を図りながら平成二六年度刊行を果たしたい。

● 平成二六年度は資料編の編集作業とともに、通史編上巻(平成二八年度刊行予定)の構成を組み立て、執筆に取りかかる計画である。無文字社会、あるいは文字記録の希少な先史・原史時代はもとより、古代から中世にかかる文献記録に記述の少ない集落生活など生活誌関係、耕地・陶磁器・鉄などの生産関係、市・道路・津などの交通・流通関係、経塚・祭祀・墓などの宗教・信仰関係等にかかわる遺構・遺物は、考古学の特性を發揮できる分野である。これまでも増して古代史専門部会・中世専門部会との緊密な連携を図りながら、地域の歴史を具体的で実態に即して総合的に捉えることを目指したい。

二 古代専門部会

古代専門部会長 宮瀧 交二

本年度、古代専門部会では、前年度の『熊谷市史 資料編2 古代・中世』の刊行を終えて、平成二八年度に予定されている『熊谷市史 通史編・上巻(原始・古代・中世)』(以下、『通史編』とする)の刊行に向けての準備に着手した。

部会構成員のそれぞれが、『新編 埼玉県史』をはじめとするこれまでに刊行された周辺地域の自治体史の検討作業を行い、当該地域の通史叙述の到達点を確認した。また、十二月に開催した部会会議では、『通史編』に向けての今後の計画を審議し、平成二十六年二月には、平成二十五年十一月に刊行された群馬大学名誉教授・森田 悌氏の著作『武蔵の古代史 国造・郡司と渡来人・祭祀と宗教』(さきたま出版会)の合評会を行う予定である。また、三月には、寺内廃寺、西別府祭祀遺跡、西別府廃寺等の古代遺跡の巡見調査を行う予定である。この他、『通史編』の古代部分を共同執筆する考古専門部会との連絡調整も本年度

中に予定している。

なお、七月二十八日に熊谷市商工会館大ホールで開催された『熊谷市史 資料編2 古代・中世』刊行記念講演会では、宮瀧が「古代熊谷の人々」と題して講演した。(詳細については、113頁参照)

また、宮瀧は論文「古代北武蔵地域における藕(蓮)系織物生産について(予察)」(吉村武彦編『日本古代の国家と社会』稿書房、二〇一四年刊行予定)を執筆し、『通史編』執筆に向けての一助とした。

三 中世専門部会

中世専門部会長 高橋 修

1 「資料編2 古代・中世」の執筆・校正

平成二五年一月までに、各執筆者(平安後期・鎌倉佐保委員、鎌倉時代・部会長、南北朝・室町・田中大喜委員、戦国時代・齋藤慎一委員、熊谷家文書・林讓委員、別府・齋藤・久下文書・田中委員、熊谷図書館大井教寛主査、嶋田文書・柴崎啓太委員、石造物等・野口達郎委員、市内家わけ・柴

崎、齋藤委員ほか)が三回、部会長が四回の校正作業を行った。なお、系図の校訂は、伊藤瑠美氏を委員に委嘱して依頼した。

同二月一四、一五日には、茨城大学において、部会長と泉田邦彦委員、事務局とで、最終校正を行った。

なお、この本は、三月三十一日に発刊された。調査、執筆、校正に五年の年月をかけたことになる。この場を借りて、執筆者の各委員、文書所蔵者等の関係各位の多大なる御尽力、御協力に厚く謝意を表したい。

2 フォーラム等の開催

①「資料編2 古代・中世」刊行記念フォーラム

「直実・実盛の時代へ」の開催(七月二八日)

資料編2の刊行を記念し、より多くの市民に関心をもってもらうため、刊行記念フォーラムを開催した。(詳細については、¹¹²頁参照)

②直実・蓮生を学ぶ会講演

毎月第一土曜日に、熊谷図書館にて開催されている「直実・蓮生を学ぶ会」において、「資料編2」の刊行を記念して、五月から四回連続で、「資料編2」の執筆者が講

演を行った。(五月四日高橋部会長、六月一日鎌倉委員、七月六日野口委員、八月三日田中委員)

3 石造物調査

① 旧熊谷市域南西部調査

七月まで、昨年に引き続き、荒川以北の旧熊谷市域西部(大麻生、玉井、三尻、石原地区等)の調査を行い、一部を除き終了した。この期間に、計一〇回、のべ七〇人にて調査を行い、板碑、五輪塔、宝篋印塔など三三二点を確認した。このうち、今回の調査で新たに確認できたものは二二三点を数え、全体の六七%に及んだ。逆に確認できなくなったものが一三点あった。

また、三月一七・一八日には、立正大学と共同調査を行い、久保島地区の三四点の調査を行った。

② 中世石造物調査会議

同七月二一日、中世石造物調査会議を開き、昨年度の調査結果を報告し、本年度の調査計画を審議した。また、第二次調査や報告書についての検討も行った

③ 旧熊谷市域北東部調査

同九月以降、荒川以北の旧熊谷市域南東部(市街地、上之、

石原、佐谷田、太井、星宮、久下地区等)及びその周辺についての調査を行っている。

四 近世専門部会

近世専門部会長 北村 行遠

近世部会では、平成二五年の主な活動として、平成二四年度第二回部会、平成二五年度第一回部会、第二回部会を開催した。平成二五年度はあと一回の部会を予定している。また、本年も史料所在調査をおこなった。以下、部会の活動内容について略述する。

平成二四年度第二回近世部会 (平成二五年三月六日)

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、妻沼の堀越尚二家文書をはじめ七件の説明があった。つづいて現在調査中の文書群について、平塚新田の山下一夫家文書をはじめ二六件の報告をうけた。昨年度以前の調査継続中の古文書も残され

ているが、市内各所より貴重な古文書が随時調査されているとのことであった。このほか新たに受け入れをした文書群として、上須戸の上須戸村文書の説明があった。これは、六〇〇点余の購入資料だが、古書店などに流出している古文書については予算の範囲内で今後とも対応したいとのことであった。

部会の議題として、資料編(三冊)の構成について検討がなされた。構成案として、熊谷宿、熊谷在、妻沼の三冊で検討しており、次回以降もさらに具体的な内容に踏み込んで議論することとなった。

平成二五年度第二回近世部会 (平成二五年七月一九日)

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、平戸の藤井八重子家文書をはじめ八件の説明と目録データの配布がなされた。現在調査中の文書群は、平塚新田の山下一夫家文書をはじめ二三件の報告をうけた。このほか新たに借用した文書群として妻沼の逸見家文書のほか五件、購入史料に上中条村文書、吉田市右衛門家文書の説明があった。前年度同様

に市内の古文書が古書店の目録に掲載されたが、編さん室としてはなるべくこうした情報も収集しつつ、予算の範囲内で継続して購入することとして了承された。

・近世部会の構成員について

近世の資料編の刊行準備に向けて、特別調査員の藤井明広氏が近世部会の会議に新たに加わることとなり、部会では承された。

・史料所蔵機関所蔵文書の調査について

市史編さん室から他機関に所蔵される市内の古文書について報告をうけた。昨年度より継続している吉田市右衛門家文書の所在調査についての報告があり、このほか江戸東京博物館、明治大学博物館などの調査結果について説明があった。

・資料編の担当者について

前回の会議で資料編の構成案として、熊谷宿、妻沼、熊谷在の三冊構成が提案されたが、それぞれの刊行予定順に妻沼に細野委員、熊谷在に高橋委員、熊谷宿に石山委員と担当者が決定された。

・史料集の刊行計画について

編さん室事務局より、史料の筆耕を依頼している「くま

がや古文書学習・研究会のこれまでの成果として、史料集刊行の企画の依頼がなされたが、近世部会全体で関わることは困難な状態であるので、委員のいづれかが史料翻刻の校正、解説の執筆などを手伝うこととして了承された。

第二回近世部会

(平成二五年一〇月一八日)

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、継続調査中の文書群として、平塚新田の山下一夫家文書をはじめ二九件の報告をうけた。このほか新たに借用した文書群として三ヶ尻の鳴野家文書、男沼の高柳家文書、購入史料に下奈良村文書などの説明があった。前回同様市内の古文書が古書店の目録に掲載されたが、編さん室としてはなるべくこうした情報も収集しつつ、予算の範囲内で購入することとして了承された。また、九月一六日に市内を襲った竜巻による文化財被害の報告がなされた。

・史料所蔵機関所蔵文書の調査について

市史編さん室から他機関に所蔵される市内の古文書について報告をうけた。昨年度より継続している吉田市右

衛門家文書についての所在調査についての報告があり、このほかに江戸東京博物館、明治大学博物館なども継続調査中との説明があつた。

・資料編の進捗状況について

刊行順に妻沼、熊谷在方、熊谷宿を担当する各委員より、それぞれ報告がなされたが、妻沼では聖天宮関連の史料を中心に調査を進めており、熊谷在方では吉田市右衛門家文書を中心に史料収集をすすめている報告がなされた。

・史料所在調査について

昨年度に引き続き、市内の史料所在調査をおこなうこととなつた。本年度は、江南、大里などの地域を中心に調査することが提案された。

・来年度の調査予定(遠隔地)について

関東圏以外に収蔵される関連史料の調査地の検討がなされたが、近江商人関係の資料などが提案され、必要性に応じて調査をしていくことで了承された。

五 近代専門部会

近代専門部会長 村田 安穂

1 平成二四年度第四回近代専門部会

(平成二五年二月三日、市立熊谷図書館)

まず、事務局活動報告をうけて新聞記事調査の優先順位、調査方法を検討した。次に、現代専門部会であつた懸案事項を事務局より報告してもらい、対応を協議した。また、通史編、資料編についての近代の始点、近代・現代の区切り、人権問題、産業・経済分野の編集委員委嘱について議論した。資料編章目立てについては、素案をもとに今後会議を進めていくこととした。

2 平成二五年度第一回近代専門部会

(平成二五年四月一四日、熊谷市商工会館)

資料編章目立て素案をもとに、各委員より章分けや細分野の担当などを検討した。その中で、資料編内容変更の打診を事務局、現代専門部会に要望した。他には人権問題、疎開児童や資料編の体裁について協議を行った。産業・経済分野の編集委員選定を行い、該当者に打診する

こととした。最後に、事務局活動報告をうけて、市内外調査の要望を行った。

3 平成二五年度第二回近代専門部会

(平成二五年七月七日、妻沼中央公民館)

産業・経済分野の編集委員委嘱について協議して老川慶喜氏を推薦し、本日より会議に参画していただいた。資料編の体裁について現代部会と意見が異なつたため、部会長同士で協議して進めていくこととした。資料編章目立ての検討を行い、章目が出来た段階で現代専門部会と合同部会を開くこととした。また、事務局活動報告をうけて、現地調査について方針を議論し、諸家文書、埼玉県行政文書、新聞記事目録のデータ統合するよう依頼した。なお、当日は午前中から希望者による妻沼展示館にある文書調査を実施した。

4 平成二五年度第三回近代専門部会

(平成二五年九月二九日、市立熊谷図書館)

まず、事務局活動報告の中で、諸家文書のデータは近代妻沼で統合できたが、行政文書、新聞記事目録をすべて統

合することは難しいとの回答をうけた。資料編体裁は現代専門部会長代理高橋信之委員と村田部会長と協議を行い、従来通りの方針で刊行する方針で合意したことを会議で報告した。章目立ては各委員で検討したものをも事務局で集約して、次回会議までに各委員へ提出していただくこととした。現地調査では、中村写真館や学校調査を開始したことを報告して成果を共有した。資料編編集体制について懸案事項を事務局に要望した。なお、当日は午前中から希望者による市立熊谷図書館にある熊谷町役場文書等の調査を実施した。

5 平成二五年度第四回近代専門部会

(平成二五年一二月二五日、市立熊谷図書館)

教育、社会労働の各委員により検討してきた資料編章目立て案をもとに成案を作成した。章目案は事務局でまとめて、年度末に現代専門部会との合同部会に提出することとした。最後に、事務局より活動報告をうけた。

六 現代専門部会

現代専門部会長 黒須 茂

1 平成二四年度第四回現代専門部会

(平成二五年一月二〇日、妻沼展示館)

事務局活動報告をうけて、現代資料の少なさが指摘され、関係機関等でのより一層の資料発掘を依頼した。資料編・通史編の体裁を議論した。また、聞き取り調査や学校調査の検討を行い、調査を始めることとした。妻沼行政センターにある永年保存文書調査での成果及び各担当分野の進捗状況を報告しあい、情報の共有をはかった。埼玉新聞については、検索したものを各自で確認して事務局に提出することとなった。なお、午前中は市史編さん室に所蔵されている文書等の調査を行った。

2 平成二五年度第一回現代専門部会

(平成二五年四月二二日、妻沼展示館)

事務局活動報告をうけて、市立熊谷図書館で調査した地方紙新聞記事調査の成果を報告した。資料編について近代部会より変更案が提起され協議した結果、現代部会

では変更は難しいとの意見になった。次に、資料編の構成について協議を行い、史料の不足している時期及び分野の意見を出し合い、対策を検討した。新聞記事調査は埼玉新聞を優先して行なうため、その他の新聞記事調査の優先順位は事務局に一任することとした。なお、午前中は市史編さん室に所蔵されている文書等の調査を行った。

3 平成二五年度第二回現代専門部会

(平成二五年七月一五日、妻沼展示館)

事務局活動報告をうけて、学校訪問調査については、事務局で連絡調整し担当者と合同で実施する。各委員の担当分野での進捗状況を確認しあい、引き続き資料編体裁の検討を行った。なお、午前中は市史編さん室に所蔵されている文書等の調査を行った。

4 平成二五年度第三回現代専門部会

(平成二五年十一月三日、妻沼展示館)

資料編体裁は現代専門部会村田安穂部会長と高橋部会長代理で協議を行い、従来通りの熊谷編二冊・妻沼編

一冊で刊行する方針で合意したことを報告した。続いて、学校調査の進捗状況を報告し情報の共有をはかった。資料編構成について議論し、合同部会にむけての協議事項を確認した。また、近代専門部会より合同部会にむけての要望があれば会議で検討することとして、次回会議は平成二六年一月に行うこととした。なお、午前中は市史編さん室に所蔵されている文書等の調査を行った。

※なお、現代専門部会長の黒須茂氏は、平成二五年一二月三〇日に逝去されました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

七 民俗専門部会

民俗専門部会長 飯塚 好

1 平成二十四年度第四回民俗専門部会

日時 平成二五年三月一八日(月)午後一時三〇分より
場所 熊谷図書館第二会議室
内容 各調査員の執筆原稿の報告。写真、挿図類の作

製選定の計画、編集・校正方法などについて検討。

2 平成二十五年第一回民俗専門部会

日時 平成二五年六月一五日(土)午後一時三〇分より
場所 熊谷商工会館
内容 各調査員の執筆原稿の確認。刊行までの行程の確認。挿図、写真等の複製、執筆要綱の確認。

3 平成二十五年第二回民俗専門部会

日時 平成二五年九月二九日(土)
場所 熊谷図書館第二会議室
内容 各調査員の執筆原稿の確認。古写真の選択。

4 平成二十五年第三回民俗専門部会

日時 平成二五年十二月七日(土)午後一時三〇分より
場所 熊谷図書館第二会議室
内容 校正の進展状況の確認。コラムの項目の決定。刊行までの行程の確認。巻頭の写真の選択。

八 妻沼聖天山の建築専門部会

妻沼聖天山の建築専門部会長 大河 直躬

3 第二回歴史部門担当者会議(立正大学大崎校舎)
(平成二五年五月三二日)

石山秀和・細野専門調査員が会議を行った。岩国徴古館の文書調査について、調査内容・日程・参加者などを決定した。また「聖天山の建築編」の資料掲載候補を検討し、史料翻刻を掲載したい旨を確認した。最後に、歎喜院聖天堂国宝指定記念講演会の日程希望・報告内容・準備について相談した。

4 平成二五年度第一回専門部会会議
(平成二五年七月二日)

各委員から前回の会議以降の活動報告があり、作業・調査などの進捗状況を確認した。次に、基本的な本の体裁・頁割り・章立てが相談の上で決定された。章立ては、序論妻沼聖天山の建築史上位置、第一章妻沼聖天山の歴史、第二章林家の歴史と職人、第三章妻沼聖天山の建築、第四章修復工事の発見・成果、第五章聖天堂建築の影響、第六章その後の聖天堂の六章立てとした。最後に、今後のスケジュール、歎喜院聖天堂国宝指定記念講演会、岩国徴古館所蔵文書の調査について確認した。

1 聖天山の石造物調査

(平成二五年一月一九日)

細野健太郎専門調査員、藤井明広・櫻庭茂大協力員が妻沼聖天山の境内で調査を行った。過去に行われた調査の成果をもとに、石造物を突見しながら一基ずつ確認していった。調査の結果、九〇基の石造物を確認し、一部写真撮影や翻刻などを行った。網羅的な写真撮影・翻刻などは、今後の課題とした。

2 歴史部門担当者史料調査(県立文書館)

(平成二五年四月三日)

細野専門調査員が埼玉県立文書館にて文書調査を行った。予定している岩国市岩国徴古館での調査の事前調査である。以前行われた新編埼玉県史編さんの調査で、岩国徴古館所蔵「岩国藩御手伝普請関係文書」をマイク口撮影しており、その成果を確認調査した。

5 第二回歴史部門担当者会議(立正大学大崎校舎)

(平成二五年七月一六日)

石山・細野専門調査員が会議を行った。調査の状況を
確認し、予定している歓喜院聖天堂国宝指定記念講演
会や岩国徴古館の調査について打ち合わせた。また本
については、凡例案や史料編に掲載する史料などを検
討した。

6 山口県岩国市岩国徴古館所蔵文書の調査

(平成二五年八月二九日～三一日)

石山・細野専門調査員が岩国徴古館にて史料調査を
行った。調査の対象は「岩国藩御手伝普請関係文書」「長谷
川氏寄託文書」である。文書を実見し、目録を確認しなが
ら、デジタルカメラにて写真撮影をした。岩国藩が利根川
の御手伝い普請のため妻沼村周辺で作成した文書や絵
図、貴惣門を設計した長谷川十右衛門の関係史料など重
要な文書を確認することができた(本書の調査報告を参
照)。

7 歓喜院聖天堂国宝指定記念講演会

(平成二五年二月三〇日)

内海勝博・細野・石山専門調査員が熊谷市商工会館大
ホールにて講演を行った。演題は、内海「歓喜院聖天堂の
建築と装飾」、細野「妻沼聖天山の建築と職人たち」、石山
「聖天堂の建立と庶民信仰」である。当日は、歓喜院院長
木英全氏からごあいさつをいただき、市民を中心に一三
〇名の参加者を得た。

九 仏像調査専門部会

仏像調査専門部会長 林 宏一

平成二四年より調査を開始し、平成二五年は二年目と
なる。今年も妻沼地域を中心に調査を行った。昨年度に引
き続き、月に一回、一日一〜三か寺のペースで調査を行
い、合計一〇日間、一九の寺院と堂を訪問した。この間に
約二二〇点の仏像等の調査を終えた。なお、調査カードと
写真の整理を西口由子委員、各寺院との交渉を坂東隆秀
委員が行った。

ところで、九月一八日に発生した台風一八号に伴う竜巻のため、熊谷市内は甚大な被害を受けた。仏像についても被害があり、御正新田浄安寺の地藏堂の建屋が全壊し、一時、市指定文化財の本尊及び千体地藏尊が外に出された状態となった。その後、浄安寺関係者及び教育委員会の復旧作業により、すべての仏像が速やかに本堂内に移されている。当部会においても、一月二五日、被害を受けた仏像を含む浄安寺の調査を行った。

平成二五年の調査は以下の通りである。

- 1 葛和田大龍寺(本堂・観音堂)(二月一七日)
- 2 大龍寺(本堂・命体堂・不動堂)(三月二五日)
- 3 妻沼台円満寺(四月二四日)
- 4 出来島普門寺(五月二九日)
- 5 男沼長勝寺(五月二九日)
- 6 妻沼小島医王寺(本堂・薬師堂)(六月二七日)
- 7 上根大性寺(七月二四日)
- 8 日向福生寺(本堂・観音堂)(九月二四日)
- 9 善ヶ島龍泉寺(本堂・観音堂)(一〇月七日)
- 10 弥藤吾長井寺(一〇月七日)

- 11 御正新田浄安寺(一月二五日)
- 12 押切宝幢寺(一月二五日)
- 13 上中条観音寺(二月一七日)
- 14 上須戸正法寺(二月一七日)
- 15 上中条延命院(二月一七日)

なお、就職等により数名の協力員が辞任したため、今年度より、山本裕子、西川真理子、萩谷みどりの各氏を新たに協力員に委嘱した。

最後に、調査先寺院関係各位の多大なる御協力に対して、厚くお礼申し上げます。